

令和7年度 刈谷市 共存・協働のまちづくり推進委員会

第1回夢ファンド部会 記録

日時：令和7年6月24日（火）14時00分～16時30分

場所：刈谷市役所 804会議室

出席者

団体名・役職等	氏 名
愛知淑徳大学 助教	熊澤 友紀子
刈谷市商店街連盟 専務理事	柘植 祥史
刈谷市ボランティア連絡協議会 会長	矢田部 寿子
NPO 法人刈谷おもちゃ病院 理事長	三輪 恒雄
防災ママかきつばた 代表	高木 一恵
一般公募	戸田 広二
刈谷市民ボランティア活動センター センター長	米田 正寛

欠席者

団体名・役職等	氏 名
一般公募	石田 彰宏

事務局

所 属	補 職 名	氏 名
市民活動部市民協働課	市民協働課長	神谷 友理
市民活動部市民協働課	課長補佐兼地域支援係長	加藤 史彦
市民活動部市民協働課	協働推進係長	遠藤 麻衣香
市民活動部市民協働課	主事	和田 佑佳
市民活動部市民協働課	主事	前川 和奏
NPO法人ボランタリーネイバース	副理事長・調査研究部長	三島 知斗世
NPO法人ボランタリーネイバース	理事・事務局長	遠山 涼子

1 開会・あいさつ

- （１）定刻になり、市民協働課長が開会を宣した。
- （２）自己紹介の後、熊澤部会長より新年度のあいさつが行われた。

本日は審査で長丁場になりますが、よろしくお願いします。申請内容の分野は福祉、環境、文化など広がりがあり、読み応えがあった。審査を通じて事業をより効果的に実施していけるよう、また、かりや夢ファンド補助金自体の知名度を上げるという点も重要な議題として議論していただきたい。

2. 議題

(1) かりや夢ファンド補助金について

■資料1を用いてかりや夢ファンド補助金の概要を事務局が説明

(ねらい) 市民や団体等からの寄附金と、その同額を刈谷市も積み立てる「マッチングギフト方式」を採用し、基金を運用している。刈谷のまちをよくするために自主的に行う活動を応援する3つの補助金の申請事業を募集している。

(かりや夢ファンド補助金メニュー)

- ① まちづくり活動支援：市内で市民団体等が自主的に行う公益的なまちづくり活動を支援。補助率は2分の1で、補助上限額が20万円の枠と、書類審査のみで決定する上限5万円の枠がある。補助を受けて事業を実施した団体が、団体自らの力で継続して活動するためのきっかけになるような事業を対象とする。
今年度の夏募集より、補助率を3分の2、1団体につき10年度間で3回まで申請可と変更する。
- ② NPO法人設立支援：NPO法人の立上げを支援。申請1回目の補助率は3分の2、補助上限額は10万円、2回目の補助率は2分の1、補助上限額は5万円。2年連続で申請する場合に限り、1団体2回まで申請可能。
- ③ まちづくりびと支援：研修等の経費を支援。補助率は10分の9、補助上限額は研修場所が国内の場合は1万円、海外の場合は5万円。

(部会の役割・スケジュール)

- ・部会では、かりや夢ファンド補助金の活用拡大の検討、書類審査および公開審査を主に行う。
- ・「まちづくり活動支援（5万円以下）」は、本日、春の募集で申請のあった4件について書類審査を行う。本日の審査で採択された団体は、令和7年8月～年度末の間で事業を実施。
- ・「まちづくり活動支援（5万円超）」および「NPO法人設立支援」の募集期間は7月15日から9月30日まで。締切後、10月中に申請書類を部会員へ送付するので、ご確認いただきたい。
- ・11月12日の第2回部会にて書類審査。公開審査会に向けた書類の確認・質問事項の検討、内容に疑義がある申請を書類審査のみで不採択とするかの決定をする。まちづくりびと支援事業は、事務局審査の結果を報告する。
- ・「まちづくり活動支援（5万円超）」および「NPO法人設立支援」は、1月24日の第3回部会（公開審査会）で採否を決定。採択された団体は交付申請手続きを行い、翌年度4月1日より活動開始。

■質問・意見交換

特になし。

(2) これまでの実施事業および寄附金について

■資料2-1, 2-2とスライドを用いて、直近年度の採択事業および寄附金実績について事務局が説明

- ・まちづくり活動支援事業のうち、特徴的な活動についてスライド資料をもとに紹介。
「第5回 SUHARA MUSIC FES (R6)」 「マジックショー (R6)」 「アートと共生社会を繋ぐ～子ども KARIYA 場 (BA) ～ (R6)」 「ふれあい泉田朝市 (こどもイベント) (R6)」 「俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 (R6)」 「保護犬・保護猫チャリティーマルシェ プ・ア・プ (R6)」
- ・R7年度は5万円超枠で2事業が採択。
「子ども食堂にお祭りを届けよう【スマイルリンク】」
「赤十字ハートフェスティバルⅢ～たいせつな未来のために～【刈谷市赤十字奉仕団】」

- ・NPO 法人設立支援事業は、昨年度「NPO 法人幸縁」へ2回目の補助を行った。
- ・まちづくりびと支援事業は、昨年度7件の申請があった。今年度は現時点で2件申請があった。いずれも防災関連研修を受講するための申請である。

(寄附金について)

- ・令和6年度の寄附金は199万4,487円で、マッチングギフトと運用収入額を合わせて409万4,603円の収入だった。支出は「かりや夢ファンド補助金」に17件の他、住民の顔の見える関係づくり又は活力ある地域づくりに取り組む自治会等に交付する「笑顔あふれる地域づくり補助金」に16件交付した。いずれの補助金も「市民活動支援基金」を財源としている。

■質問・意見交換

【笑顔あふれる地域づくり補助金について】

委 員：笑顔あふれる地域づくり補助金の担当はどちらの部局か？

事務局：市民協働課地域支援係が担当である。自治会からの申請を審査し採否を決定する。R6年度は上限15万円で、16団体からの申請があり、採択した。R7年度は市制75周年記念として上限50万円、23地区全てで申請・採択された場合、最大1,150万円の補助を見込む。

委 員：自治会は皆さん一生懸命に取り組まれている。全部の自治会から申請があるのか。

事務局：本日午前に開催した、自治会が対象の勉強会で申請を勧めた。

【かりや夢ファンド補助金のコラボ記念事業について】

委 員：かりや夢ファンド補助金で、75周年記念事業に取り組む予定はあるか。

事務局：市制65周年と70周年では、コラボ65、70として周年事業に取り組んだが、75周年では自治会向けの継続的支援へ着眼点を变えて実施する。

【補助金の執行状況について】

委 員：西三河レインボープライドの決定額が9千円となったのはどんな理由か。

事務局：実績報告の際に、補助対象経費としての要件を満たさない領収書等が含まれていた。初めての申請であり、団体と連絡を密にとって対応していたが、イベントを3月末に開催したことも事後手続きに負荷がかかる一因となっていた。

委 員：実績に差額が生じた事業は、予算の見立てが甘かったという事は考えられるか。コストが抑えられたとしたらよい変化であるが。

事務局：手品会は会場を総合文化センターからハイウェイオアシスへ変更した。愛教大と連携して実施したため会場費が減り、お客さんも増えた良い事例である。

委 員：予算項目をまたいで流用することは可能か？

事務局：費用を他の科目で流用すること自体は問題ない。

委 員：会場費で減額し、余った分を集客等のために活用することもできると理解した。

【コネクトームでハーブの育成を通じた人々の交流事業について（亀城わっしょいプロジェクト）】

部会長：昨年度審査において、亀城公園に設けられたハーブの植え付け場所の利用を含む事業継続が未定であるとの報告であったが、その後進捗はあるか？

事務局：今年度まで実施延長が確定している。担当課である公園整備課にも確認済。

【かりや夢ファンド補助金の認知度アップにむけて】

委 員：補助金を活用した取組が、多くの方に広がらないのは一市民としてもどかしく思っている。一部の地域でがんばっている取組を知って、自分たちの地域でもやってみよう、というきっかけになるとよい。実施してよかったにとどまらず、次に広がる起爆剤になってほしい。

部会長：助成団体の広報実績などは確認できるか？

事務局：コネクトームの取組は KATCH、西三河レインボープライドは中日新聞に掲載された。マスコミへの報道提供の様式を設け、団体からの提出を受けて依頼手続きを行っている。

委員：活動の実施後、例えば google フォーム等でのアンケートで認知度を確認することはできるか。最終的な認知度や参加のきっかけなどを把握し、次の展開につなげられるとよい。

事務局：全体に聞くことは難しさがあるが、イベントに参加した人にきっかけを確認することはできる。今後、効果検証に取り組むうえで役立てたい。過年度の実績では、刈谷歴史研究会の活動取材しまとめた「ファンドレポート」を、あったかハートまつりの際に掲示したところ、その後一定の期間にウェブサイト閲覧数が増えたと聞き、効果を感じている。

委員：高齢者や小学生を対象とした活動の場合、それぞれに対して伝わっているけど参加していないのか、そもそも対象とする方に伝わっていないのか、それによって課題が変わる。予算がかからない程度に現状把握に努めていけるとよい。

委員：アンケートを紙で書くのは大変。会場に QR コードを掲示して簡単に答えられるとよい。

部会長：統一したアンケートフォームを用意し、会場に掲示して回答を集めてはどうか。集計結果は一元管理でき、団体の手間は少なく負担にはならないのではないかと。

事務局：昨年度のご意見をふまえ、のぼりを団体に貸し出す PR 活動に取り組んでいる。本日のご意見も参考に組み合わせていただきたい。

(3) 令和7年度募集の手引きについて

■資料3-1、3-2、3-3、3-4を用いて、募集概要について事務局が説明

(まちづくりびと支援)【桃色】

- ・刈谷のまちづくりに取り組む人たちが自主的に参加する研修等の経費に対する補助。
- ・4月1日から3月末まで通年で募集を行う。

(まちづくり活動支援(5万円以下))【橙色】

- ・4月1日から5月14日まで募集した。本日、書類審査をしていただく。

(まちづくり活動支援(5万円超))【緑色】7月15日から募集開始

●昨年度からの変更点

- ・【表紙】一部前払いを可能とする。前払い可能な金額の上限は交付決定額の2分の1。希望する団体は手続きを要する。
- ・【表紙】補助率を2分の1から3分の2へ引き上げる。
- ・【表紙】1団体につき、10年間で「3回」まで申請可能とする。補助金の合計額は10年間で上限40万。1回につき上限20万円とする。P5の申請パターン例を紹介。次回の申請額5万円以下枠は、令和8年4月に募集予定。
- ・【P5】事業継続に向けた計画書の様式を設けた。提出は任意。
- ・【P3】「かりや夢ファンド補助金」のPRをすることを条件に追加。
- ・【P4】事業を継続するための予算の活用方法を解説し、活用を促す。
- ・【P4】領収書等により、支払いが確認できないものを対象外経費とした。

(NPO法人設立支援)【緑色】7月15日から募集開始

●昨年度からの変更点

- ・【P4】その他の経費(その他市長が必要と認める経費)を追加した。

■質問・意見交換

【募集の手引きについて】

委員：P5にある申請例により、申請可能回数が3回までに変更になったことが分かりやすい。これまでの議論から、事業を継続することが大変であり、それを応援する枠ができた点は評価できる。前提として、この補助金は必ず継続される認識で良いか。初年度5万、3年目に20万の申請を予定していたが補助金がなくなってしまう、というようなことはないか。3年程度の計画を立てて成長したいという申請が出てくることを期待したい。

事務局：予算成立が条件となるが、継続に関しては庁内で合意がある。

【事業継続にむけた計画書について】

部会長：事業継続に向けた計画書は大切である。3か年にわたる大きな事業目的があり、1年ごとに目的と期待する効果を積み上げていく形である。企画書の作成はトレーニングが必要であり、書き方を知っている人でないと作成は難しいかもしれない。3か年で40万円まで活用できる枠を浸透させるためにも、すべての団体にとって計画を考えることは大切である。任意提出であるが、「これをもって相談に来てください」というように、相談の際に活用いただけるとよい。

委員：大きな目的が変わらなければ、事業内容は変化していてもよい。

部会長：例えば孤立対策を目的とする団体の場合、支援対象数を広げる事業の形もあれば、目的を達成する異なる内容のイベントを開催する形でもよい。相談を通じて団体が選択していけるとよい。

事務局：様式の名称は「事業継続に向けた計画書」と訂正する。3か年とした場合、3年連続した申請が必要という誤解を招く可能性がある。

【対象経費の説明について】

委員：対象経費に「おすすめ」と書かれているが、申請経験がない人にとっては、具体的にどんなお金が対象となるか分からないかもしれない。これまでの申請で対象となったものなど、具体例を示し、対象経費の相違が防げるとよい。

部会長：活動を継続するために、消耗しない備品をお勧めしている意図が伝わるとよい。

委員：耐用年数の長いものは対象外としている補助や助成は多いため、この制度はありがたい。プリンターやタブレットなどの備品を買うのはよくないのでは、と捉える人もいる。また、対象外と思い込んで領収書の取り忘れがなくなるとよい。この他にもボランティア保険の利用を案内するなど、イベントの実施に必要な経費が分かるように伝えていただきたい。

(4)まちづくり活動支援事業補助金(5万円以下)書類審査

■資料4-1, 4-2を用いて事務局が説明

・まちづくり活動支援事業（申請額5万円以下）：申請は4件、申請額の合計は200,000円。

■質問・意見交換

委員：審査ポイントシートにある「3点＝合格ライン」の表現が分かりづらかった。5項目×3点＝15点であるのに、基準点は12.5点。2.5点×5項目＝12.5点を合格ラインとするなら理解できるが、2.5点とすることはできない。合格とあるとそれ以下の点数にしづらいように感じた。

事務局：審査シートの評価審査の基準を示す意図で用いたが、誤解を招く表記であった。今後は「基準点」「普通」の表現を明確にし、分かりやすく改める。

1 刈谷発達仲間の会「漫画家【沖田×華】さん／トークショウ『やらかしたっていいじゃん！！』」 申請額 50,000 円

- 委員：ボラセンもよく利用され、積極的に活動している。今年 6 月に開催されたイベントでは、入場券の発売後に企業や団体まわりをされるなど、参加者集めに苦心されていた。今回はチケット発売前に、協力してくれそうな団体等へ早めに手を打っていただけるとよい。また、入場者だけでなくボランティアとしての参加を呼びかけることでも知っていただくきっかけとなる。早めの対策を要望として伝えたい。
- 委員：6 月に落語家を招いた講演会を開催された際に、ボランティアとしてお手伝いした。テーマの「大人の発達障がい」についてどれだけの方が知っているか心配したが、多くの方が来場され、発達障がいへの理解が深まる一助となった。
- 委員：沖田×華さんはすごく有名な方で、若い方に知名度が高く、衝撃的な漫画を描かれていることで知られている。マンガはウェブで読めたり、ドラマ化もされていたので市外からも多く集まるのではないかな。発達障がいだけでなく、医療関係の職場での勤務を活かした内容が多い。
- 委員：有名人の方で大人の発達障がいを公表されるケースが増えている。
- 委員：イベントの実施計画が書かれているが、団体としての R7 年度の活動計画が分かるとよかった。また、「公益性」の欄に、小学生の発達障がい児や不登校生徒数が申請書に記載されているが、それに対するアプローチ方法が明確でない。申請書の受理に問題はなかったか。
- 事務局：申請書は団体の想いを重視して受け取っており、内容の添削は必要最低限としている。
- 委員：事業内容は大人の発達障がいテーマであるけれども、小学生の発達障がいにも益があると伝えなかったのではと理解した。こうした活動の実施に意義がある。
- 委員：小学生の発達障がい児や不登校者数を明記するのであれば、小学生の親御さんがイベントに来られるよう各小学校にちらしを配布するなど、関連する計画があるとよかった。対象の方に益が及ぶよう取り組んでいただきたい。採択された後でよいので、団体にアプローチをどのように取り組むか、確認しておきたい。
- 委員：発達障がいの認知はどの程度あるのか。小学校でも認識されているのか。
- 部会長：発達障がいの認知は以前より進んでいるが、ここからが障がいという線がなく、スペクトラムと言われる。医師の診断や自己認識の有無は個人の選択に委ねられている。イベントをきっかけに自分の特性に気づき、医療機関やカウンセラーへの相談につながることも公益性があると捉えられる。
- 委員：イベントをきっかけに気づいた人たちへ、会としてサポートされるとよい。それについては明言されていなかったが、そこまで取り組まれると素晴らしい活動になっていくだろう。
- 委員：予定はあるが書かれていなかったとしたら、明記していただけるとよい。
- 部会長：活動開始から 1 年、一歩踏み出したと捉えると、このタイミングでかりや夢ファンド補助金で応援できる点は良い。

2 Office アイリスの華「マグノリア室内管弦楽団 特別演奏会「Meet the Composer Vol.2」 ドヴォルザークの青春」 申請額 50,000 円

- 委員：イベント開催のための申請書類であり、活動全体の詳細が十分に記載されていない。
- 事務局：対象事業や実績にある事業以外にもさまざまな活動に取り組まれていることは把握している。
- 委員：申請書の内容を簡素化した意図は理解できるが、工夫して書かれていないと伝わらない。単発のイベントで終わらず、イベントを行うことがまちの活性化に役立つという説明があるとよい。

委員：団体は演奏会に向けて、3月から練習を重ねている。学校を離れると楽器を続けられなかったり、発表する機会がなかったりするので、そのための発表の場である。

部会長：発表の場がないことが団体の課題と捉えている。

委員：発展・継続性に「地域文化向上」とある点について、具体的にどうつながるのか、事務局によるヒアリングなどで確認できるとよい。

部会長：「文化工房かりや」と運営協力するとあるが、どのような予定か。

事務局：当日の運営を手伝うと聞いている。

委員：担当の久保田さんは「文化工房かりや」のメンバーでもあり司会を務めるのではないか。

部会長：刈谷市の小中高の音楽・吹奏楽経験者が卒業後も団体のメンバーとして定期的に発表の場を持つ仕組みを将来的に目指すといったことであれば発展・継続性の評価につながる。

委員：音楽教育や育成等につなげていけるとよいと思う。具体的に書かれているとよかった。

委員：9月15日開催で、チケットは900円で既に販売されているが、ここで初めて知った。情報が十分に広まってほしいが、事業の周知、チケットの販売は計画的に行えているか。

事務局：ちらしは市役所の窓口に配架している。

部会長：採択された場合も、かりや夢ファンド補助金の補助に関する記述が記載されない。申請と事業の実施時期とに課題が残る。

委員：駅の通路でPRできないか。公共施設は後援名義があれば掲示できる。

事務局：通路は市事業であれば掲示できる。サイネージは有料広告として活用できる。市の後援は既に受けており、公共施設での広報物の掲示は可能である。

3 サブロー・ガルテン「俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 Vol.2」

申請額 50,000 円

委員：参加費 999 円とは？

事務局：参加費が千円を超えると会場費が倍になるため、999 円とされている。

委員：前回と同じ活動である点はよいが、前回の成果やふりかえり、改善点などに関する説明があるとよかった。今後は 5 万円以下の団体にも事業継続の計画書を用意してもらえるとよい。

部会長：新聞記事が添付されているが、昨年度の活動を紹介するものではなかった。

事務局：団体から提出されたふりかえりシートでは、これからも続けていきたいと、継続に重きを置いている。昨年度活動の場を訪問した際に熱量を感じた。活動を続けることにより参加者の広がりは期待できる。

委員：「かりや」夢ファンド補助金なので、春日井ではなく刈谷のお話にしていただけるとよりよかった。

部会長：前は、刈谷の童話作家を取り上げていただいた点に評価が集まった。

委員：同じではいけないと思ったか。朗読者の関係者の絵本を取り上げたかったのかもしれない。

委員：方言は刈谷弁としてもらえるとよい。

委員：活動は、団体内でのスキルアップが目的か？

部会長：ボランティアのスキルアップが目的であり、スキルアップした朗読を小学生や地域住民に還元されるというメリットがある。

4 ヒラソラ「Co-nec-to みんなで育つ！子どもと大人をつなぐ刈谷コミュニティプロジェクト」 申請額 50,000 円

委 員：事業化や有償の取組について、団体の活動としては問題ないが、補助の対象としてよいのか。

部会長：「ビジネスの力で社会課題を解決する」流れがあり、最終的には事業収入で社会還元を目指す先駆的な活動である。対象者が限定的なため、営利活動と誤解されないか懸念がある。

委 員：ボランティア活動では、食事代や交通費等、実費分の補助が一般的である。将来的には託児所、乳児園のような事業として取り組まれていくようなイメージがある。社会課題の解決の趣旨は理解できるが、誤解を招かないよう取り組んでいただきたい。

事務局：補助金の目的は「自主的活動に対する補助」であり、非営利の事業であれば事業収益を上げることは問題ない。

委 員：ボランティア活動でも継続性を求めるなら人件費は認めていかないといけない。

部会長：謝礼を受け取る学生 2 名が団体メンバーでなければ問題ない。

事務局：昨年度実施された商工業振興課のプロジェクトをきっかけに誕生した団体と聞いている。メンバーは福祉関係者やイラストレーター、メーカー勤務など多様な分野の方々の集まりであり、学生はメンバーではない。

委 員：「主体性」の枠は chatGPT で生成されたものそのままと見受けられる。AI を活用することはよいが、きちんと考えられているかどうか、内容の信頼性や主体性に疑問を覚える。団体自らの考えを確認したい。

委 員：子どもの安全を考えて取り組んでいただきたい。子どもを預かることについて、学生や団体の方で見守りができるのか、危惧している。

委 員：予算書において事業収入の根拠として「通常イベント 20 人」「お泊りイベント 15 人」と記載があるが、対象者をどのように募集・選定し、具体的にどのような取り組みが行われるのかが読み取れない。

委 員：万一、何かが起きたら大変なことになる。対象が毎回同じ子どもであれば一定の信頼関係が築ける可能性があるが、単発イベントを 4 回実施するだけでは、子どもたちとの信頼関係を十分に構築できるかどうか懸念がある。

部会長：子育て有志グループの利用者が対象となるのか？

事務局：育Qクラブは活動と一緒に取り組む協働相手で、ワークショップで知り合った団体メンバーではない。保育士はメンバーの知り合いに協力を得る。

委 員：知り合い＝団体メンバーへの支払いとも捉えられ、補助対象経費としてグレーではないか。

事務局：団体メンバーではないとのことなので問題ない考える。

部会長：ポラセンに団体登録はあるか？

委 員：登録はない。最近、市外から転入した夫婦から子育てに関する相談があった。行政の窓口など紹介したが、市外から来た人には支援窓口や情報が見えにくい現実がある。

部会長：子育て期に相談先が分からず孤立する世帯があることは事実としてある。

委 員：事業の目的にある「保護者のリフレッシュ」に関して、保護者を対象に具体的にどのように取り組まれるか。また、子どもの安全確保や保護者相談会の担当として保育士 1 名の配置が予算書に記載されているが、20 世帯程度に対して 1 名で十分か。最後に、防災に関しては、地域の防災に取り組む団体と連携して取り組んでいただきたい。

■審査の結果、以下の通り決定した。

- ・まちづくり活動支援事業補助金（5万円以下）の申請について、4事業全てを採択とする。条件付き採択は該当なし。

まちづくり活動支援事業（基準点：12.5点）

申請順	団体名	事業名	合計点	採否
1	刈谷発達仲間会	「漫画家【沖田×華】さん／トークショウ『やらかしたっていいじゃん!!』	19.29	採択
2	Office アイリスの華	マグノリア室内管弦楽団 特別演奏会「Meet the Composer Vol.2」ドヴォルザークの青春	17.86	採択
3	サブロー・ガルテン	俳優松原実智子さんの朗読を聞く会 Vol.2	16.86	採択
4	ヒラソラ	Co-nec-to みんなで育つ！子どもと大人をつなぐ刈谷コミュニティプロジェクト	17.57	採択

3. 今後の予定

(1) 第2回夢ファンド部会

11月12日（水）14時～16時 申請数によっては、予定以上の時間がかかる可能性もある。

(2) 第3回夢ファンド部会（公開審査会）

令和8年1月24日（土） 午後の開催を予定。昨年度は申請数2件に対し、午後半日での開催だったが、多くの申請をいただいた場合は、午前中からの開催になる可能性もある。申請が出そろった時に、時間の見通しをお伝えする。

以上